

表3-19 鼻汁と鼻出血の病態と方剤

	症状	病態	方剤
急性鼻汁 (悪寒や発熱を伴う)	透明水様性鼻汁 (鼻鼾)	外感風寒	小青竜湯 麻黄附子細辛湯 葛根湯加辛夷川芎 香蘇散
	黄色で粘性または透明鼻汁	外感風熱	桑菊飲*・銀翹散*
慢性鼻汁	透明水様性鼻汁 (鼻鼾)	脾肺気虚	苓甘姜味辛夏仁湯・香蘇散 玉屏風散*合蒼耳子散*
		腎陽虚	八味地黄丸
	黄色粘性な臭味を伴う鼻汁 (鼻淵)	湿熱燻蒸	辛夷清肺湯・越婢加朮湯・ 竹筴温胆湯
	白色粘性で多量な鼻汁	湿邪・脾虚	二陳湯合六君子湯
(鼻出血)		肺胃鬱熱	黄連解毒湯

(3) 慢性鼻汁

慢性の鼻汁は、肺や脾・腎の病態の結果、出現したものが多い。治療に際しては、脾虚や肺気虚の方剤を加方したり、緩和期には根本的治療(本治)をはかるべきである。また記述した病態以外にも、瘀血や燥証が共存する病態もあり注意を要する。

①透明で水様性の鼻汁：鼻鼾の病態で、次のような原因で出現することが多い。肺気虚のための風寒邪の日常的侵襲，脾虚のための湿気の生成，腎陽のための体液調節不良などである。このうち，脾肺両虚証がよくみられる。

治法：苓甘姜味辛夏仁湯が多用される。これは表証治癒作用はなく、胃腸障害も起こしにくいためである。その他、風寒邪の場合、急性鼻汁と同様の方剤が使用される。肺気虚には玉屏風散*合蒼耳子散*が使用される。玉屏風散*は桂枝加黄耆湯合黄耆建中湯で代用可能である。腎虚症状を伴うときには、八味地黄丸を使用したり加方する。

②白色粘性で多量の鼻汁：湿邪によるものが多い。この原因は消化機能低下（脾虚）が多い。これは水分の吸収が不良となり湿が停滞して鼻腔に上昇したものである。

治法：脾虚を改善して湿邪を除く二陳湯合六君子湯が使用される。

③黄色あるいは緑色の粘性臭味を伴う鼻汁：鼻淵の一種で、湿熱により蒸されて（湿熱燻蒸）出現したものである。湿熱の原因は、肺気虚や脾虚のことが多い。また虚火による湿熱も多く注意が必要である。

治法：熱を冷まし湿を除く（清熱除湿）。辛夷清肺湯が多用される。熱証が軽度なものには、竹筴温胆湯や越婢加朮湯が使用される。

〔付〕鼻出血：鼻衄びじくともいう。衄とは、ネバネバした、はなちの意味である。その多くは、肺や胃に熱が鬱し（肺胃鬱熱）、血が経絡を妄行[†]したために生じる。清熱作用のある黄連解毒湯が使用される。時に陰虚による虚熱、成人女性では倒経[†]で生じることもある。

POINT 鼻衄と鼻淵

鼻汁は、その性状から大きく鼻衄びじくと鼻淵びえんに分類される。

鼻衄：風寒や風熱などの外邪によって、透明鼻汁・鼻閉・鼻腔痒感・くしゃみなどが突然に、かつ反復性に出現する病態。アレルギー性鼻炎・花粉症などの季節性アレルギー性鼻炎などに相当する。

鼻淵：「淵」とは深い池、奥深い様などの意味である。鼻淵とは、慢性的に黄色や白色の粘性で混濁した臭気を伴う鼻汁が出現する疾患である。重症化すると頭痛やめまいなどが出現する。西洋医学の副鼻腔炎や慢性鼻炎などに相当する。